

経営比較分析表（平成29年度決算）

福井県 福井市

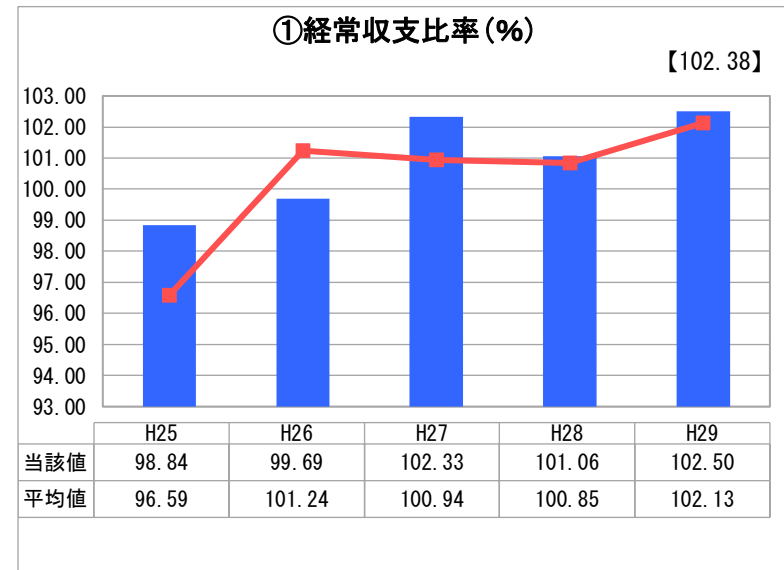
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	61.28	2.76	92.63	2,138

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
265,260	536.41	494.51
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
7,284	2.34	3,112.82

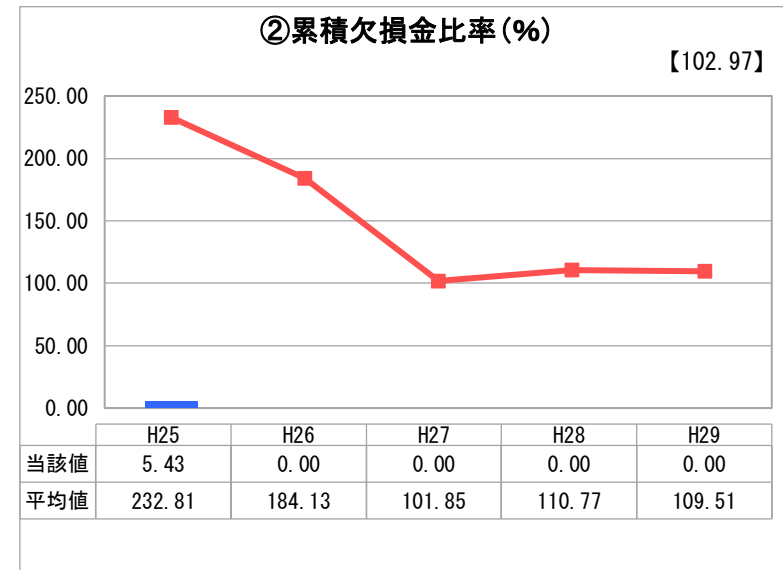
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

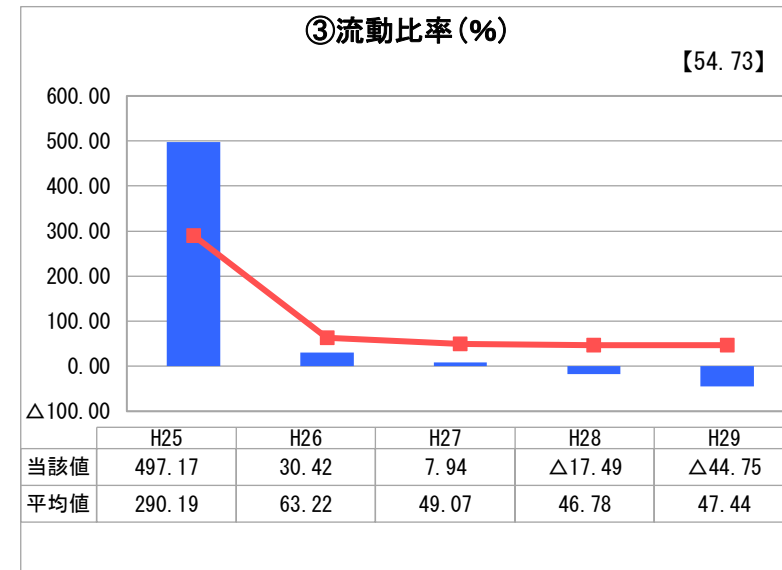
1. 経営の健全性・効率性



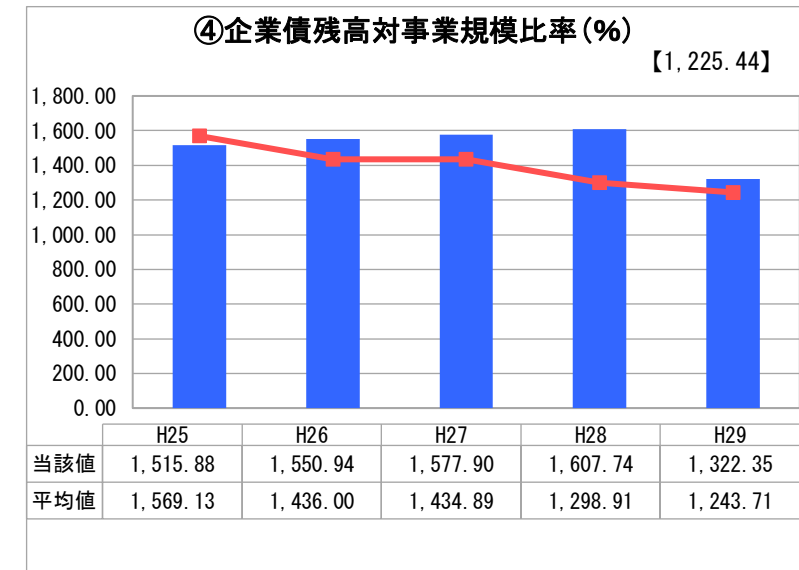
「経常損益」



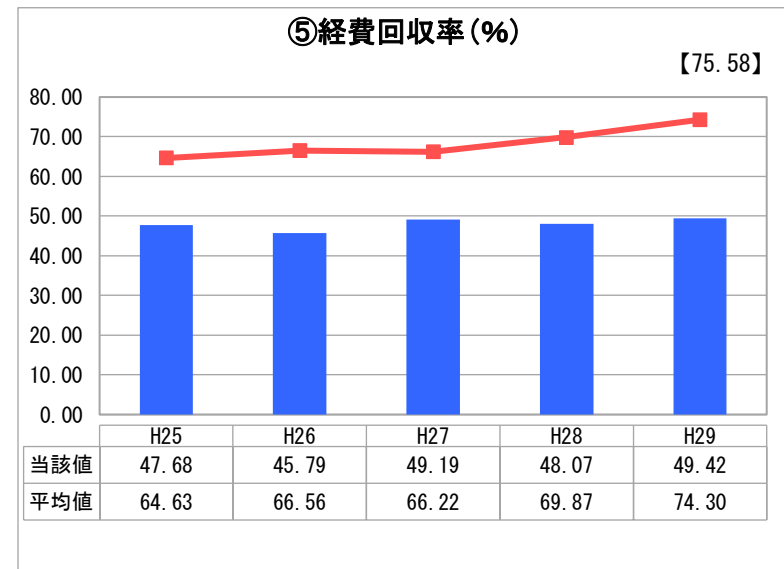
「累積欠損」



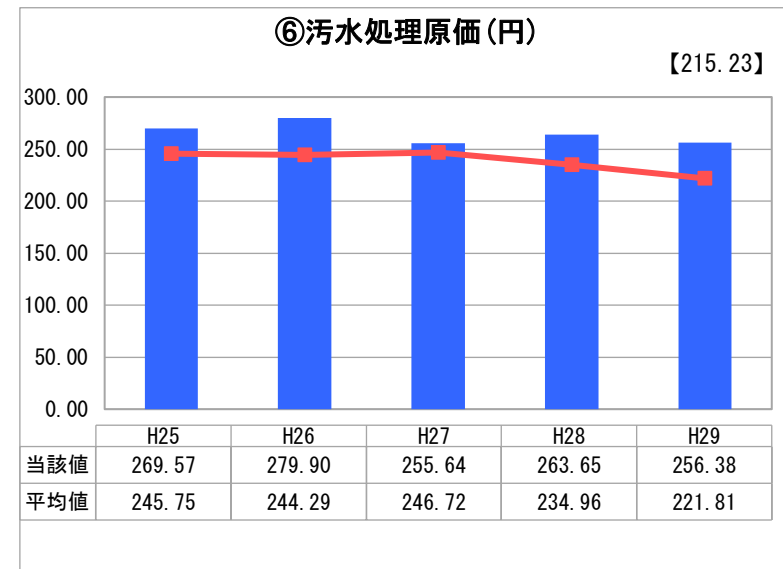
「支払能力」



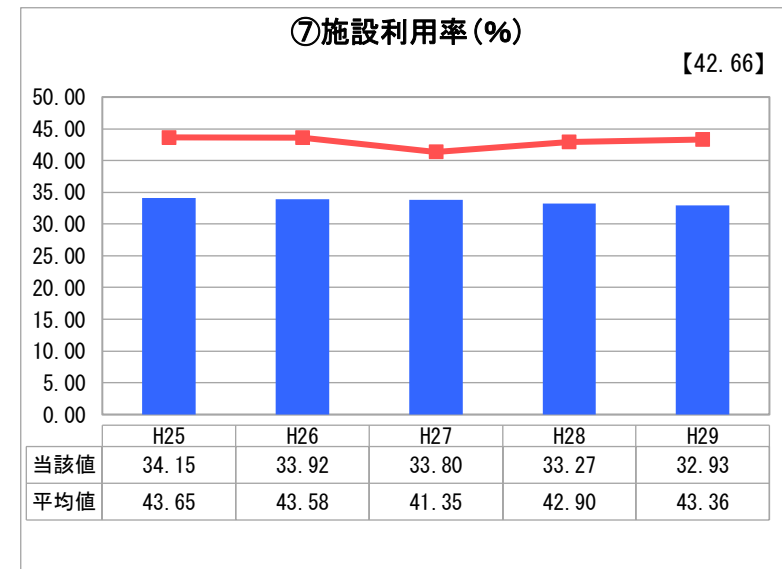
「債務残高」



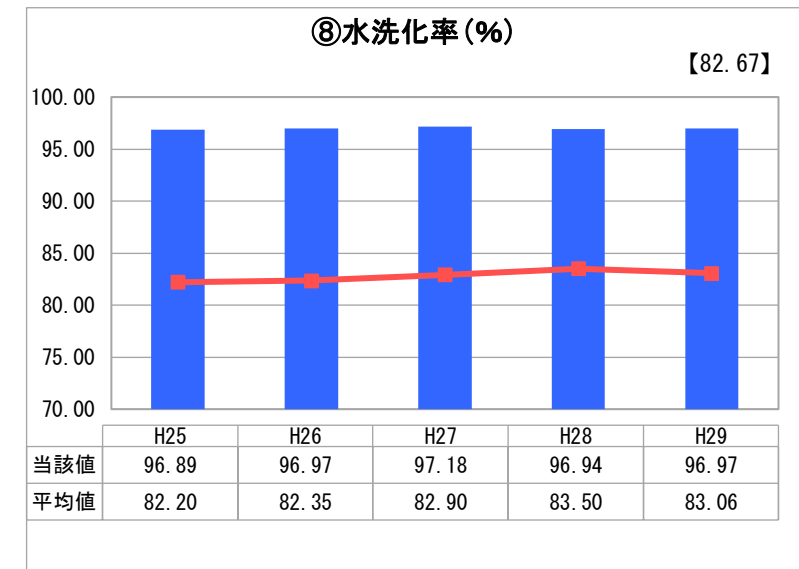
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

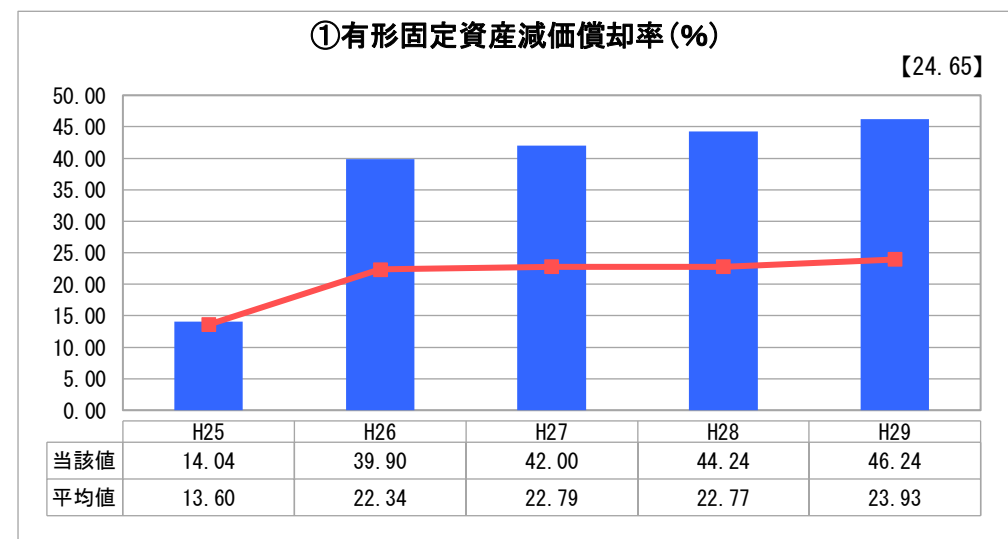


「施設の効率性」

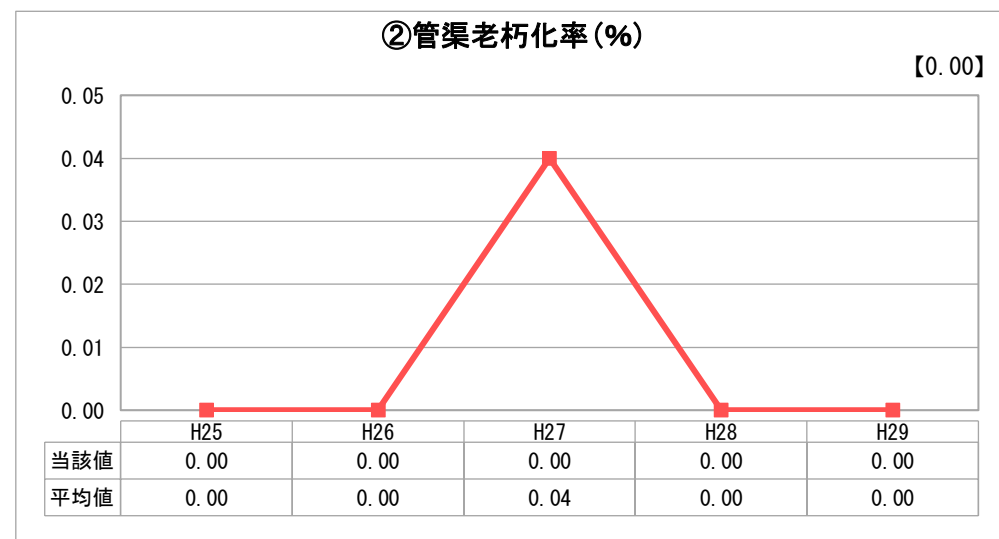


「使用料対象の捕捉」

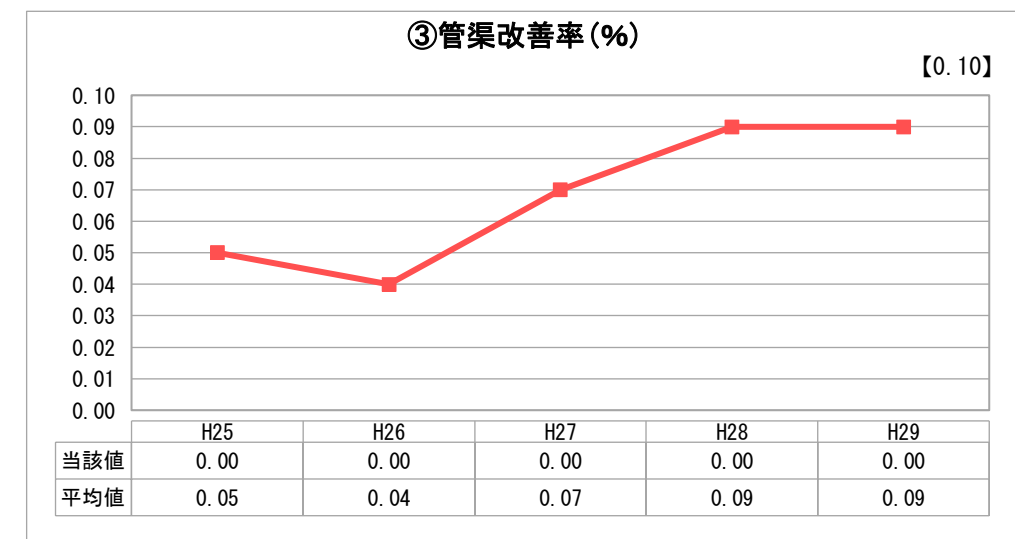
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は例年100%前後を推移しており、総収益で総費用をほとんど賄っている。しかし⑤経費回収率は類似団体平均値と比較して低く、営業収支不足分を一般会計から繰り入れて経営を成り立たせている。これは、処理区域内人口規模が小さいため汚水処理原価が公共下水道よりも高いにも関わらず、使用料体系は公共下水道と同一であるため、汚水処理原価を賄いきれないことによる。

⑦ 施設利用率は低く、処理水量に対して過大なスペックとなっている施設も一部あると思われる。

⑧ 水洗化率は、接続促進に力を注いでいるため、類似団体平均値と比較して高い値となっている。

2. 老朽化の状況について

下水道の供用開始が平成6年であるため、まだ24年間しか経過していない。従って、管渠については、耐用年数の観点から考えても、半分以上の経過年数となっていることから、現状としては老朽化対策はほぼ実施していない。

処理場やポンプ場については、必要に応じて長寿命化計画を策定し、単に法定耐用年数通りに更新するのではなく、事前に施設の調査・点検を行い、その時の状況に即して更新を行っている。

全体総括

人口の少ない地域が対象であるため、一般会計からの繰入金に頼った経営となっている。平成28年度に策定した中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」に基づき、安定的な下水道事業経営に取り組んでいく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。